

研修医コーナー



研修医1年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

辛島正嗣

諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は大分大学附属病院・研修医1年目の辛島正嗣と申します。この場を借りて自己紹介をさせていただきます。私は大分市に生まれ、大分大学附属幼稚園・小学校・中学校を経て、大分舞鶴高校へと進学し、岡山県の川崎医科大学で学び2020年度に晴れて医師となり、故郷であるこの大分県へと戻ってまいりました。初期研修の場所として大分県を選んだのは、研修医の段階から様々な科の先生方から大分県の医療というものを知り、育った場所に医師という形でどう貢献できるかを学ばせて頂きたかったからです。

私事にはなりますが、大分県に帰ってきてからは、新たな発見が多くありました。街並みも多くは変わってはいませんが、大分駅もだいぶ様変わりし街の流れも変わったなと感じました。私の趣味は釣りやスポーツです。釣りでは、大分県は海が近くとても多種多様な魚が釣れ、先生方の間でも釣りが趣味という方も多く会話が弾み、楽しみが増えました。スポーツでは、大分トリニータの観戦も楽しみの一つです。県内にはファンの方がとても多く患者さんとも話せる共通の話題です。また、コロナ下ではありますが、多くの美味しいお店があり訪れたいお店をピックアップする日々です。

さて、研修医としての生活がスタートし約1年が経とうとしております。私は2020年4月より消化器内科・精神科・小児科・呼吸器外科・救急救命科・麻酔科・内分泌糖尿病内科・腎臓内科、そして現在、循環器内科で研修させていただいております。出身大学が違うため、カルテの使い方や病院の構造など最初はわからないこと尽くめでしたが、上級医の先生方や、2年目の先生方がとても優しく教えてくださり、研修医としてのスタートを無事切れました。各科で手技や診察方法などを教えていただく中で、それぞれ魅力的な部分があり、どの科を専攻しようかととても迷います。未だに患者さんと対面すると緊張し、戸惑うことがあります。医師として最善の治療が提供できるように心がけております。研修医としてできることは限られているとは思いますが、いざという時に動けるようにこれからも努力していきたいと思っております。

最後に私の座右の銘をご紹介します。私の座右の銘は、高杉晋作の『おもしろくこともなき世をおもしろく』です。今この瞬間・環境・出会い、全てに感謝しこれからも医師として人々の生活を豊かにしていけるよう精進していきたいと思っております。

末筆ながら、諸先生方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

研修医コーナー



研修1年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

佐藤 健吾

諸先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

研修1年目の佐藤健吾と申します。私は大分県由布市の出身で、私立岩田高校を卒業し、福岡大学医学部へと進学しました。

高校卒業後から福岡に住み始め、人生の三分の一近くを福岡で過ごしてきたため福岡には非常に愛着があります。食べ物もおいしく、レジャーも豊富な福岡県は非常に魅力的な場所であり、始めは福岡で初期研修を行うことも考えました。しかし、これから先の長い医師人生を考えたとき、やはり自分の生まれ育った場所である大分県のために働きたいと考えました。研修先として大分大学附属病院を選んだ理由は地元だからです。幼い頃は由布市で過ごし、大学病院の近くでよく遊んでいました。福岡から帰ってきた時に立派なヘリポートが建設されていたことに驚いたことをよく覚えています。大人になって再び由布市で生活することは、どこか懐かしさもありながら新鮮で、毎日楽しく過ごせています。

さて、4月から初期研修医として新たな一步を踏み出しましたが、始めはわからないことだらけで毎日があっという間に過ぎていきました。また最初の研修科が消化器外科ということもあり病棟業務から手術の準備とやるのが非常に多く頭がパンクする寸前でした。そんな中、ある手術に第3助手として入ったときに手が止まっている自分に対して上級医から「研修医はもうお客さんじゃないんだぞ。手を動かせ！」という言葉を受けました。確かに自分はまだ学生気分であり、自分がやらなくても先生方が治療してくれるという甘い考えを持っていました。もう自分は1人の医師であり患者を治療する立場だということを再認識し、それ以降は自分で手術書を読み込み、手術に臨むようになりました。

研修先を選ぶ際に大学病院は市中病院に比べて手技をやる機会が少ないとよく言われます。実際、市中病院で働く同期の話聞いても手技をやる機会は少ないと思います。ただ1つの症例に対してじっくりと時間をかけて考察できることが大学病院での研修の一番の魅力だと思います。1年目の研修も終盤ですが自分は大学病院を選択して良かったと実感しています。これからも目の前の患者に対してじっくりと向き合っていこうと思います。

最後になりましたが、諸先生方の益々のご活躍を祈願して研修1年目の近況報告とさせていただきます。ご精読ありがとうございました。

研修医コーナー



研修医1年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

後藤 妃奈子

諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

研修医1年目の後藤妃奈子と申します。私は大分県出身で、大学卒業後大分大学で研修させていただいております。

今年度より初期研修がスタートし、もう少しで終わろうとしています。初めはカルテの使い方に慣れることさえ大変でしたが、上級医の先生方、周りのスタッフの方々が大変優しく、些細なことでも丁寧に教えてくださり、日々出来ることが増えていっているのを実感しています。また、研修医向けの勉強会も充実しており、大変多くのことを学ばせていただいております。

私はこれまで主に内科、救急・麻酔科を研修させていただきました。振り返ってみると、どの科も魅力的で、充実した研修が出来たと思います。進む科はまだ定まっていませんが、残りの研修期間を有意義な時間にし、将来進む科を見つけて、日々成長していけたらと思います。

研修前は、大学病院では手技をする機会が少ないのではないかと少し心配していた部分もありましたが、決してそのようなことはなく、積極的に手技の機会を与えてくださるので大変感謝しております。

今年は大学病院でじっくり学び、専門性の高い症例を経験しました。来年度は大学外の市中病院でも研修させていただき、common diseaseも数多く診て、大分の医療に貢献できるよう頑張りたいです。

最後になりましたが、諸先生方の益々のご活躍を祈願して、研修医1年目の近況報告とさせていただきます。

ご精読ありがとうございました。

研修医コーナー



研修1年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

横山直樹

初冬の候、諸先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は大分大学医学部附属病院で1年目初期研修をさせて頂いております、横山直樹と申します。この度、このような場を与えて頂いた事を大変光栄に思います。4月からの研修で学んだことやそれを踏まえてのこれからの目標などをご報告させて頂ければと思います。

まず初めに自己紹介をさせて頂きたいと思います。私は大分県出身で、今年29歳となりました。地元の植田小学校、植田中学校を卒業し、その後、大分上野丘高校、大分大学と進学いたしました。しかし順調だったのはここまでで、大学では二度の留年、医師国家試験では二度の浪人をしてしまい、家族には大変な迷惑をかけてしまいました。今年になってようやく医師になることが出来たので、これからは少しでも親孝行できればと考えております。

さて、初期研修について話を戻しますが、初めの数カ月間はわからないことの連続でした。その中で最も記憶に残っているのが、担当患者さんが急変した際に何も出来なかった事です。何をしてもいいか分からずスタッフの方々の邪魔にならないようにするのが精一杯でした。自分の勉強不足を痛感し、普段からもっと実際の動きを想定した勉強をしていればと、不甲斐なく感じました。その後、研修をしていく中で「研修医として患者さんのために出来ること」を考えるようになり、少しずつではありますが状況に応じて考え、動く事が出来るようになってきました。また、採血やルート確保などの基本的な手技についても出来る限り自分で行うようにし、いざという時に率先して動けることを目標としております。

研修全体について振り返ると、4月から循環器内科、呼吸器内科、小児科、産婦人科、消化器内科とローテーションさせて頂きました。主要な内科、そして周産期を経験し、1カ月に1回の救急当直を経験する中で、さらに様々な角度から疾患についての理解を深めたいという気持ちが湧いてきております。初期研修医としてローテーション出来る期間は非常に短いですが、一つ一つの経験を大切に、多面的に学習を深めていく所存です。以上を以て近況報告とさせて頂きます。

末筆ながら、諸先生方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。ご清覧いただきありがとうございます。

研修医コーナー



研修医1年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

合井愛華

諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、研修医1年目の合井愛華と申します。まず始めに自己紹介をさせていただきます。私は宮崎県日南市の出身で、私立宮崎第一高校を卒業し宮崎大学医学部へと進学しました。はじめは宮崎県内での研修を考えていたのですが、ふとこのまま同じ土地で医師としての第一歩を踏み出すよりも、県外へ飛び出て、新しい環境で新しい人と出会い、慣れない場所で試行錯誤しながらも研修をした方がより人間としても成長できるのではないかと思い立ち、昔から密かに住んでみたいと思っていたおんせん県大分を研修先選ばせて頂きました。研修病院の選択も悩みに悩みましたが、やはり大分県の病院の顔であり、研修医をはじめ医師の数が多量大分大学医学部附属病院で1年目の研修をすることが、大分の医療を知るための一番の近道だと思い、現在大分大学病院にて研修をさせて頂いております。今年度より大分県に移住し、一人暮らし自体も初めてで最初は恥ずかしながらてんやわんやでしたが、現在では料理や釣りといった新しい趣味ができ、充実した日々を送っております。

さて、今年度より初期研修がスタートし、半年ほどが経過しました。私はこの半年間は内科を中心に研修させて頂きました。何分出身大学が違うため、カルテの使い方や病院内の構造も全く無知で、本当にゼロからのスタートでしたが、上級医の先生方、2年目の先輩方をはじめ、周りのスタッフの方々が大変優しく、些細なことでも丁寧に教えてくださり、無事に研修医としての第一歩を踏み出すことができました。また大学病院では手技をする機会が少ないのではないかと少し心配していた部分もあったのですが、決してそのようなことはなく、積極的に手技の機会を与えてくださるため大変感謝しております。はたまた、大学病院は医療を提供する場であるとともに教育の場でもあるため、去年までとは一転してポリクリ実習中の医学生に教える立場になり、教えるあげることで自分が学ぶことも多いのだと最近実感しております。今年度は大学病院でじっくり学び、来年度は救急科など大学外の市中病院でも研修をさせて頂き、common diseaseも数多く診て、より大分の医療を深く知り、貢献できる医師になりたいと思っております。

最後になりましたが、諸先生方の益々のご活躍を祈願して研修医1年目の近況報告とさせていただきます。ご精読ありがとうございました。

研修医コーナー



研修医1年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

川崎弘貴

諸先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は研修医1年目の川崎弘貴と申します。4月より大分大学医学部附属病院にて研修をさせていただいております。まず始めに、諸先輩方に倣い、自己紹介をさせていただきます。出身は宮崎県宮崎市で、宮崎大付属中、宮崎西高校理数科を経て、大分大学医学部をこの春卒業し、研修医となりました。大学時代は鉄道を見に、撮りに、乗りに、津々浦々を駆け巡る「鉄道マニア」の生活を送っていました。現在は鉄道動画を休日にネットで見て過ごしています。

さて、COVID-19の第1波が大分県にもやってきた状況に一抹の不安を覚えながらこの4月に医師生活の第一歩を踏み出しました。コロナ禍の影響により、各種交流行事や研修会が中止になったり、研修医の医療従事の一部制限されたりと研修面でもその影響は今も出ています。しかし、私は「逆に時間が十分に確保できるから、一人一人の患者さんを丁寧に診察、診断し、治療する時間が増える。」とチャンスにとらえ、日々の診察・治療に全力で挑み、主体的に学び、診療に参加することで、知見を広め、手技を磨く日々を過ごしました。ご指導いただく先生方も、時には自らの不十分なことに厳しく、時にはできたことを同僚のように褒めてくださり、時には頑張りに応じて手技をさせてくださったり、時には提案した治療薬を採用してくださったりするなど、自らのモチベーションを高めてくれるご指導を日々受けることができ、この上なく光栄に思えます。そして、患者さんが元気に退院される時「先生に診てもらえてよかった。」という言葉に医者として冥利に尽きる瞬間を実感しました。

研修開始から半年であり、明確な将来設計はまだ出来上がっていませんが、全身疾患を診る診療科に進みたいと、考えています。具体的には膠原病内科や腎臓内科、感染症内科、といった診療科を候補にしています。ただ、この先、新しく出会う診療科が出て来るかもしれませんが、日々学びながら、決めていきたいと思えます。

最後に僭越ながら、私の座右の銘を紹介させていただきます。この言葉は陸上自衛隊の標語の一つであり、この言葉は国民の健康と安心を守る、我ら医療人にも通じると考えています。

「我らここに励みて、国安らかなり」

諸先生方のご多幸とご清栄をお祈りし、末文といたします。乱文ながら、最後まで御精読、ありがとうございました。

研修医コーナー



研修医2年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

五所 真之輔

諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、研修医2年目の五所真之輔と申します。まずはじめに自己紹介をさせていただきます。私は大分市内の出身で、岩田中学、高校を卒業し大分大学医学部へと進学しました。その後大分大学医学部附属病院のたすき掛けプログラムで、1年目は大分赤十字病院で研修し、2年目である現在は大分大学病院で研修をさせて頂いています。高校まではサッカー部に所属していましたが、大学では新しいことに挑戦しようと思い管弦楽団に所属しました。楽器はバイオリンで、今も大分交響楽団に所属し休日は練習に励んでおります。また最近では周りの影響もありゴルフを始めました。難しく上手いいかないことのほうがまだまだ多いですが、常に楽しむことを忘れずに日々練習をしています。

昨年は大分赤十字病院で、主に内科、救急、麻酔科を研修させて頂きました。研修医であることの前に一社会人としても何もわからなかった自分ですが、職場での心遣いや基礎となる手技、知識などを丁寧に教えていただきました。研修医向けの勉強会も充実しており、また自分の当直した日で興味を持った症例を発表して討論する場などもあり、大変多くのことを学ばせて頂きました。研修医1年目だったということもありすべてのことが新鮮で、上級医の先生方のちょっとした話や経験談なども鮮明に覚えています。また当時の2年目の先輩方にも大変よくしていただき本当に感謝しています。

2年目の現在についてですが、もともとの志望科であった整形外科を中心に研修させて頂いています。1年目の時に経験したものはまた違う経験をたくさんさせて頂いています。知らないこともたくさんあり、日々何も出来ないと思う自分ですが、上級医の先生方は根気強く丁寧にご指導して下さい本当に感謝しています。まだ研修医ということで比較的時間もあります。将来を見据え、時間を有意義に使って勉強し成長し、目の前の患者さんや大分県の医療に貢献したいです。

最後になりましたが、諸先生方の益々のご活躍を祈願して研修医2年目の報告とさせていただきます。ご精読ありがとうございました。

研修医コーナー



研修医2年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

工藤涼平

諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

大分大学医学部附属病院研修医2年目の工藤涼平と申します。はじめに僭越ながら少し自己紹介をさせていただきます。私は、生まれも育ちも大分県で、大分上野丘高校を卒業後、大分大学医学部へ入学しました。学生時代は、お世辞にも勤勉な医学生とはいえ、所属していた軽音楽部での活動に勤しんでおりました。何とか国家試験をクリアし、大分大学のたすき掛けプログラムで1年目は新別府病院、2年目は大学病院で研修させていただくことになりました。

1年目の研修先として新別府病院を選ばせていただいた最大の理由は、救急車搬入台数が県下有数であることでした。1次から3次まで幅広い症例を経験させていただき、またその多くをファーストタッチさせていただきました。救命救急センター長の添田徹先生をはじめ、指導医の先生方はどなたも熱意をもって指導してくださり、知識や技術だけでなく、医師として必要な心構えや責任感なども学ぶことができました。また、2年目の先輩や同期の存在も非常に大きく、些細なことでも相談できる環境で大変心強かったです。

2年目となった今は、大学病院で内科を中心にローテートさせていただいております。大学病院は専門性の高い症例が多く、1年目とはまた違った勉強ができていると感じています。まだまだ未熟で勉強不足だと感じるのが大半ですが、稀に少しは成長したかなと思える時もあり、日々楽しく研修させていただいております。まずは自分が1年目の時に頼っていた先輩方の姿に近づけるように努力していきたいと思っております。

さて2年目のこの時期ともなると、周囲の友人たちは進路が決まりつつあります。まだ進路を決めかねている私としては少し焦っていますが、どの診療科に行っても生まれ育った大分県に少しでも恩返しができるように頑張りたいです。

最後になりましたが、諸先生方の益々のご活躍を祈願して研修医2年目の近況報告とさせていただきます。ご精読ありがとうございました。

研修医コーナー



研修医2年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

木下湧暉

諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、研修医2年目の木下湧暉と申します。はじめに自己紹介させていただきます。出身は大分市内で、大分上野丘高校を卒業し、大分大学医学部で医学を学びました。大学卒業後は生れ育った大分の地で研修したいという思いが強く、1年目は大分県立病院、2年目は大分大学病院で研修することとしました。小学校のころから大学まで野球部に所属していました。今でも休日に草野球をしたり、DAZNでプロ野球観戦をしたりしております。

昨年研修させていただいた大分県立病院では、内科・外科・小児科・産婦人科など診療科が多く、common diseaseから高度医療を要する稀な疾患まで幅広い症例を経験することができました。また、救急外来においても、可能な限り研修医がファーストタッチさせていただき、主体的に勉強する機会も増えました。指導してくださった先生方は熱意のある方が多く、医師という仕事のやりがいや責任感を学ばせていただき、医師としての第一歩を踏み出す場所として選択し、とてもよかったと思っています。

2年目は現在、麻酔科・集中治療部で研修しております。週3日麻酔をかけさせていただき、マスク換気や挿管、ルート確保といった基本的手技を学びつつ、週2日集中治療部で研修させていただき、術後の方や敗血症の方など急性期の全身管理を勉強させていただいております。勉強になることが多く、1日があっという間に過ぎ、充実した研修をしております。

研修医としての時間も半分が過ぎ、進路を決める時期が近づいてきました。どの科も魅力的でどの科に進むかまだ定まっていませんが、残りの研修期間を有意義な時間にし、将来進む科・やりたいことを見つけて、日々成長していけたらいいなと思います。

最後になりましたが、諸先生方の益々のご活躍を祈願して研修医2年目の近況報告とさせていただきます。

ご精読ありがとうございました。

研修医コーナー



研修医二年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

竹 森 翼

諸先生におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、研修医二年目の竹森翼と申します。一年目に大分市医師会立アルメイダ病院で研修をさせて頂き、二年目の現在、大分大学医学部附属病院で日々研修に励んでいます。はじめに自己紹介をさせていただきます。出身は福岡県で、久留米市にある福岡県立明善高校を卒業後、大分大学医学部で医学を学ばせて頂きました。小・中・高校と野球に励み、大学では尊敬する先輩に勧誘して頂いた関係もあり、ソフトボール部に所属していました。大学卒業後は、県外での研修も考えたのですが、お世話になった大分に恩返しをしたい、また大学生活を共に過ごした仲間と理想とする医療に携わりたいと思い、大分県で研修をすることを決意しました。

一年目に研修をさせて頂きましたアルメイダ病院では、一年間と短い期間でしたが研修病院として選択し、研修をさせて頂き本当に良かったと思っております。三次救急病院ということもあり、豊富な症例数、恵まれた環境、そして素晴らしいスタッフの皆さまに囲まれ、日々貴重な経験をさせて頂きました。アルメイダ病院の先生方は、個性的で情熱的な方が多く、医療に対する思いや、患者さまへの接し方、仕事に取り組む姿勢は今までの価値観を変える良い機会となりました。また、医師だけでなく、看護師、薬剤師、臨床工学技士、PT、OT、ST、事務や施設のスタッフの皆さまの関係、連携がとても良く、チームで医療を作っていくことの素晴らしさを教えていただき、自分も将来このような環境で医療を行いたいと思いました。

現在、二年目研修医として麻酔科を中心に大学病院で研修をさせて頂いております。将来は救急医療、集中治療に携わりたいと思っており、麻酔科で全身管理を勉強させて頂いた後、尊敬する先輩、切磋琢磨できる同期、魅力的な後輩とともに理想とする医療を作っていきたいと思っております。一度切りの人生において、どの科に進み、どの地域で医療を学び、携わっていくのか、という選択はとても難しいことですが、ともに頑張っていきたいと思う仲間とともに日々模索し、これからのより良い医療のために努力し続けます。

最後になりましたが、諸先生方の益々のご活躍を祈願して近況報告とさせていただきます。

ご精読頂きありがとうございました。

研修医コーナー



研修医2年目の近況報告

大分大学医学部附属病院

相馬 颯 介

諸先生方におかれましてはますますご健勝のことと存じます。

大分大学医学部附属病院研修医の相馬颯介と申します。大分県由布市出身で昨年大分大学を卒業しました。この度大分県医師会報にて「研修医コーナー」が新設されるとのことで、寄稿依頼をいただきました。第1回目の掲載記事ということで、非常に光栄に感じております。大変恐縮ではございますが、近況報告をさせていただきます。

研修医になり1年が経ちました。現在大学病院にて2年目の研修を行なっています。昨年も大学で研修を行ないました。楽しみ半分、不安半分で研修医生活が始まったことが今でも昨日のことのように思い出されます。

1年間大学病院での研修を振り返ってみると、非常に楽しく、また充実した研修ができたと思います。他の研修病院と比べ各科の医師の数が多く、どの科の先生も私に教育に十分な時間を割いてくれました。医師の数が多いいというのは大学病院の強みだと思います。3年目や4年目の若手の先生も多く、分からないことを相談しやすいという環境も非常に良かったと思います。よく分からないまま何かが進んでいくということはほとんどありませんでした。その他に大学病院の特徴として、常にポリクリの学生さんがいるということもあると思います。1年目研修医ではありましたが、すでに学生さんに対しては教えるという立場になるため、中途半端なことはできません。上の先生方に教わったことを自分の中で消化し、学生さんに教えることでしっかりアウトプットができたと思います。また学生さんならではの視点から、自分が勉強になることも多々ありました。

また、私はお酒を飲むのが好きで、先生方との飲み会もとても楽しかったです。病院だと中々できないような話など聞くことができたり、また自分の話を聞いてもらうこともできました。最近はコロナウイルスの影響で中々外に出ることが出来ず非常に残念です。収束したらまた都町へ繰り出したいと思います。

2年目になり将来専攻したい科も徐々に決まってきました。また後輩の研修医ができ、さらに身が引き締まる思いです。今後も諸先生方にご指導いただきながら、昨年以上にさらに充実した研修にしていきたいと思います。

最後になりましたが、諸先生方のますますのご活躍を祈願して近況報告とさせていただきます。ご精読いただきありがとうございます。ありがとうございました。